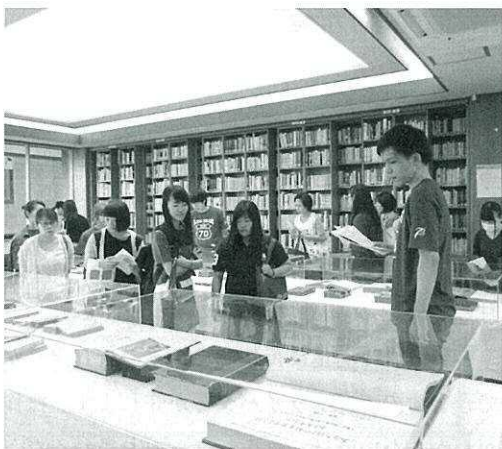


「高校生が知っている世界の有名な書物展 2016」を開催

本学図書館は「高校生が知っている世界の有名な書物展 2016」の第1回目を6月19日（日）のオープンキャンパス開催時に行いました。

図書館を訪れた高校生たちは、ヘミングウェイの『誰がために鐘は鳴る』やゲーテの『ファウスト断片』、バルザックの『谷間の百合』を見て知っているとか読んだことがあるなどと言って話し合い、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』にはアーサー・ラッカムが描き、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』にはハザレルが描いた挿絵の美しさに感動の面持ちで貴重書を眺めていました。また、杉田玄白・前野良沢の『解体新書』、王家の呪いで話題になったハワード・カーターの『ツタンカーメンの墓』、進化論で有名なダーウィンの『ビーグル号航海記』、アダム・スミスの『国富論』、ニーチェの『ツァラトゥストラかく語りき』などでは、教科書に出ていた本の実物を目の当たりにして驚きの声を上げていました。

今年は、洋書30点・和書5点の合計35点を出版しており、次回のオープンキャンパス開催時にも同内容の展示を行います。



なお、今年の展示目録の表紙には、ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』の挿絵で、ジャポニスムの影響が濃厚な絵を採用しています。浜辺に打ち上げられた巨大なガリヴァーの周囲に集まった鎧兜や袴姿の侍たちの他に日傘を差した着物姿の女性たちが描かれている興味深い絵です。

オープンキャンパス時の図書館案内に図書館アルバイトの皆さんが活躍

「高校生が知っている世界の有名な書物展」はオープンキャンパスの日程に合わせて行われていますが、グループでライブラリー・ツアーに参加される高校生に対して、図書館でアルバイトをしている在學生がガイドをしています。第1と第2閲覧室、そして書物展へと案内しながらにこやかな態度で分かりやすく説明し、好感をよんでいます。特に、大学で学ぶ楽しさを存分に表している姿は、高校生は勿論のこと、お付添いの方々にとっては、頼もしさと同時に大学に対する信頼感が高まる様子で、大変好評です。